

〈原 著〉

ワーキンググループ制導入による リンクナースの意識の向上

大重 育美

The introduction of working groups changes the motivation of link-nurses

Narumi Oshige

要 旨

リンクナースは感染管理のために各部署と感染管理チーム（Infection control team；ICT）を仲介する役割の看護師である。リンクナースの活性化のために感染管理に関する4つのワーキンググループを作成し、ICTの仕事の一部を主体的にリンクナースが行うように変更した。このワーキンググループ導入前後でのリンクナースの感染管理に対する意識調査を行った。

リンクナースになる前に感染管理に興味があった者は11人中6人であったが、リンクナースになることで感染に対する意識変化があったと殆どのリンクナースから解答があった。またワーキンググループ導入はリンクナースに仕事現場での負担増を与えているものの、その有効性に高い評価を下している結果が得られた。さらに、ワーキンググループ導入による具体的な実践活動後では、11人中10人のリンクナースで更なる意識の変化があったことから、リンクナースになるだけでは役割認識が不十分であったことを証明する結果が今回の調査で得られた。

Key words : ICT, リンクナース, ワーキンググループ

序 文

院内感染対策は病院業務の重要な仕事の一つである。当院でも院内感染対策委員会が設置され、その感染管理活動を能率よく行うために感染管理チーム（Infection control team；ICT）¹⁾²⁾が平成8年より設置された。しかし、ICTにおける決定事項の伝達が一方的になりがちで、病棟での意見などがICTに届きにくいという問題点があったことから、平成14年より各部署にリンクナース³⁾を配置し、臨床の現場からの意見収集を図り、さらに現場における感染管理の責任者として位置づけた。しかしリンクナースを設置するだけでは一般にリンクナースの意識・活動が十分でなく、臨床現場からICTにもたらされる情報は少なく、リンクナース同士の連携も希薄であった。これを解消する目的で平成15年よりリンクナースが自主的に感染管理活

動を行うように、感染管理に関する4つのワーキンググループに所属させた。このワーキンググループ制導入による効果を確認するために、リンクナースに感染管理に関する意識調査をワーキンググループの導入前後で行った。調査結果からワーキンググループ制導入の効果の検証を試みた。

1. 方 法

リンクナース全員11名（病棟8名、透析室1名、外来1名、手術室1名）に対して最初にリンクナースになる前後での感染管理に対する興味および意識変化の調査を行った。その後リンクナースを4つのワーキンググループ（表1）に所属させ目標設定を行い、1年間のリンクナースとしての活動前後で感染管理・認識に対して同じ質問による調査を行った。さらに、リンクナース活動内容およびワーキンググループ制についての調査を行い、ワーキンググループ制の有効性を検討した。

佐世保共済病院 ICT

著者連絡先：〒857-8575 長崎県佐世保市島地町10番17号

論文受付日：2005年2月4日 受理日：2005年8月16日

表1 ワーキンググループの活動内容

	配置人員	活動内容
院内巡回グループ	3	院内巡回の定例化による現場の状況把握の迅速化と現場での問題抽出のために、月に1回約1時間のペースで8箇所ある病棟および外来、中央処置室と透析室のうち2箇所を巡回する。ナースステーション、病棟内の清掃や整理整頓、廃棄物の処理、点滴等の作成方法、手袋の使用法、手洗いの方法・頻度などを重点的にチェックし評価した。結果は各部署あてICTの意見書を添えて通知する。
サーベイランスグループ	2	中心静脈カテーテル関連感染を中心にサーベイランスの徹底およびフィードバックの迅速化を行う。感染率を毎月算出し、毎月のICT委員会において感染率を報告する。
病棟における一次洗浄見直しグループ	3	従来、病棟で再利用が必要な場合は病棟で一次消毒後に中央材料部で再度滅菌・消毒を行っていた。この病棟での一次消毒廃止が可能な項目の検討を行う。
標準予防策啓蒙グループ	3	米国疾病予防センターの提唱した「標準予防策」を各部署において啓発し、普及を促す活動を行う。標準予防策に対する医師・看護師の認識度をアンケート調査にて確認する。

2. 結果

(1)リンクナースとしての感染に対する認識

リンクナースになる前には約半数の者しか感染管理に対して興味を抱いていなかった。しかし、リンクナースになったことでワーキンググループ活動を行う前の時点でも、多くの者に感染管理に対する認識の変化があることが確認された(表2)。

表2 リンクナースになる前後での反応
(平成14年、ワーキンググループ制導入前)

1. リンクナースになる前は、感染管理に興味がありましたか?	①ある	6	
	②ない	5	
2. リンクナースになってから、感染管理に対する認識が変化しましたか?	①した	9	1①の5名
			1②の4名
	②しない	2	1①の1名
			1②の1名

(n=11)

(2)リンクナースへの質問

ワーキンググループ制導入前後で調査では、ワーキンググループ制を負担に感じる活動とした点以外では、役割認識への理解、精神的負担、負担に感じる活動にはほとんど変化がみられなかった。ICT委員会への期待項目で勉強会・研修会の増加やサーベイランスのサポートを望む者が増加して積極的な姿勢がやや向上している結果が得られた(表3)。

(3)ワーキンググループ制について

ワーキンググループ制の仕事に負担を感じる者が多かったが(表3)、ワーキンググループ制の協力体制は良好であり、その活動そのものに対する有効性に高い評価を下していた(表4)。さらにワーキンググループ活動で感染管理に対する認識に変化があった者がほとんどであった(表4)。

表3 リンクナースへの質問

リンクナースへのアンケート結果比較		平成14年 (n=11)	平成15年 (n=11)
1. リンクナースとして病棟での役割が理解できていますか?	①できている	8	9
	②できていない	3	2
2. リンクナースとして精神的負担を感じますか?	①非常に感じる	3	3
	②少し感じる	8	8
	③全く感じない	0	0
3. リンクナースとして負担に感じる活動を選択してください。(上位1つまたは2つまで選択可)	①サーベイランス	4	3
	②ICT会議参加	2	1
	③研修会参加	1	2
	④病棟への決定事項の伝達	4	4
	⑤ワーキング制	—	8
	⑥その他	3	2
4. 今後ICT委員会に期待することは何ですか? (上位1つまたは2つまで選択可)	①勉強会・研修会の実施および紹介	3	5
	②サーベイランスのサポート	2	4
	③病棟での感染対策について、不明な点・不可解な点に対するコンサルテーション	10	10
	④その他	1	0

表4 ワーキンググループについて（平成15年、
ワーキンググループ制導入後）

ワーキンググループ内の協力体制はとれていますか？	①はい	9
	②いいえ	2
ワーキンググループ制は有効だと思いますか？	①はい	10
	②いいえ	0
	③どちらでもない	1
ワーキンググループ制活動で、感染管理に関する認識の変化はありましたか？	①はい	10
	②いいえ	1

(n=11)

3. 考察

感染管理上、病院内に感染対策委員会の設置が義務づけられている。その感染対策委員会の機構の中で、病院内の感染症発生状況を的確に把握し、感染対策上のさまざまな方策を立案し、実行するよう指導的立場にあるのが感染管理チーム（ICT）である¹⁾²⁾。ICTは感染対策委員会と臨床の現場との仲介的立場にたつが、実際はICTが対策を立案し、現場に指導を行っていく場面が多い。感染対策立案上、現場からの意見、情報は不可欠なものであるが、当院で平成8年より行ってきたICT活動はICTから現場への一方的な情報伝達に終始し、現場からICTへの情報伝達は少なく不十分と思われた。このため、平成14年より各病棟、透析室、外来、手術室にリンクナース³⁾を配置し、ICTと現場をリンクする役割を目的とした。その結果、MRSAアウトブレイクでのICT介入時においてリンクナースより大きな協力が得られた⁴⁾。しかし、表1に示すようにリンクナースになって感染管理の認識に変化があっても、実際にはリンクナースから「自分は何をすべきかわからない、感染管理に興味を持っていない」などの意見があった。また、期待した現場からICTへの情報も以前と変わらず多くが得られない状況があり、リンクナース同士の横の情報交換は希薄で具体的な成果に乏しかった。このため、リンクナース活動を活性化しリンクナース各自に感染管理に対する自覚を高める目的で平成15年よりワーキンググループ制度を導入し、各ワーキンググループにはICT委員がオブザーバーとして関わるようにした。

導入した4つのワーキンググループの具体的な詳述は省くが、一例として院内巡回グループに関して記述する。院内巡回グループは毎月1回2部署ずつの巡回をすることにより、それ以前の約半年に1回の巡回で病院全部署の内半分程度しか巡回できなかった時⁵⁾と比較し巡回の能率が向上した。その結果、各部署における目標達成度が同一年度内に複数回巡回することで比較可能となり、よりの確な感染対策上の指導を行うことが可能となった。また、月間別にみると巡回開始

当初の部署よりも後半になるにつれ達成率が上昇している傾向があった。これは、毎月のICT委員会で、巡回した部署の結果報告を受け、リンクナースやスタッフが感染管理上の問題点を理解し、各自の部署で改善に努めた結果と思われた。また、手術室など特殊部署を巡回したことは、「清潔区域」での業務の実態を把握する上で有用であった。一律に既定のチェックリストで対応できない部署には、チェックリストの再考が必要であることもわかった。

残りの3つのグループを含め、全てのワーキンググループで具体的成果をあげることににより、リンクナースが責務を自覚してスタッフに働きかける効果が認められたので、当初の目的であったリンクナース活動の活性化についてアンケートから検証を行った。表3で示すようにワーキンググループ制の負担が増加しているという結果を得たが、リンクナースとしての自覚、精神的負担にはほとんど変化がなかった。ICTに期待する中で勉強会・研修会の実施、サーベイランスをサポートする意見の増加は、リンクナースの意欲の増加の現れと捉えられた。しかし感染対策の現場でのコンサルテーションを希望するものが殆どであったことは、ICTとしての責務の大きさを自覚するとともに、リンクナースへの教育方法についても再検討の機会となった。理想的な事例ではリンクナースは感染研修を受講して知識を備えてから資格を得て⁶⁾、その上でリンクナースとして各職場での感染管理実践者として良い効果を出している⁷⁾。しかし当院の場合はリンクナースとしての活動開始前研修はなく活動しなくてはならない状況と、1年間で約4割が交替することから経験年数と知識レベルが一定ではない。リンクナースになる以前からのスタッフ教育も含めてICTが専門的な研修計画を行い、まず興味から知識習得に変化するような教育的戦略⁸⁾が必要である。そのために当院ではワーキンググループ制を導入することになった。

ワーキンググループ導入前の状況を良く反映した結果が、表2でリンクナースになって感染管理に対する認識が11人中9人変化したと答えていたにもかかわらず、表4のワーキンググループ制活動で感染管理に対する認識において11人中10人が変化したと答えた点にあった。このことは、リンクナースになって得られた認識の変化は実は不十分なものであって、ワーキンググループ活動を通じて更に向上した結果と考えられた。一回だけの意識調査は基準が曖昧になりがちなことから評価が困難なことが多い。しかし、今回のように同一の質問をワーキンググループ制導入前後で行い、その回答を実際の行動結果と照らし合わせて評価することでリンクナースの意識変化をある程度具体的に評価することが可能になった。

欧米では、ワーキンググループ制への参画でリンクナースを感染管理看護師 (Infection Control Nurse)⁹⁾等のスペシャリストと信頼関係を構築させることでリンクナースの意欲が維持している報告¹⁰⁾がある。これら欧米での資格制度や教育システム⁸⁾¹¹⁾を参考にしながら自施設に応じたシステムを展開していく必要がある。今後もワーキンググループ活動を継続予定であるが、今回は継続的な活動を続けていくべき活動(サーベイランス・院内巡回等)、ある程度目標を達成し他の活動へのシフトを考慮すべき活動(一次消毒、標準予防策啓蒙等)を峻別し、適切な人材を有効に配置できるようICTとして考慮していくことが課題である。リンクナースの有効活用のためには所属長及び病院側の理解と協力は不可欠であること³⁾を意識して、その働きかけをICTが担う必要がある。さらに、リンクナースを対象としてアンケート調査を継続し、リンクナースの意識の変化やワーキンググループ制の影響などを確認して、当院でもリンクナースが感染管理の役割モデル³⁾⁷⁾として活躍できるように支援していきたい。

結 語

リンクナース活動活性化のためのワーキンググループ制導入前後でリンクナースの意識調査を行った。ワーキンググループ制導入はリンクナースの現場での実際の負担を増加させていたが、リンクナース活動を活性化する上で有用であり、リンクナースの精神的負担増にはつながらず評価も高かった。ワーキンググループの活動に応じた実際的な成果が得られた結果を反映する形で、リンクナースとしての自覚が高まり、リンクナース同士の連携も強まったことがアンケート結果から明らかになった。

謝 辞

本論文作成にあたり、当院内科部長林田一洋先生にご指導いただき深謝いたします。

文 献

- 1) 賀来光夫, 北川美穂: 検査部の立場からみたICNの役割, INFECTION CONTROL 3(1): 35~39, 1996
- 2) 一山智: 我が国におけるInfection Control Teamの活動, INFECTION CONTROL 8(1): 40~43, 1999
- 3) Dawson SJ: The role of the infection control link nurse, Journal of Hospital Infection 54(4): 251~257, 2003
- 4) 大重育美: MRSAアウトブレイク時におけるICTの対応, 環境感染 18(4): 411~415, 2003
- 5) 大重育美: ICT発足後1年間の取り組みと今後の課題, INFECTION CONTROL 6(4): 108~111, 1997
- 6) Jenner EA, Wilson JA: Educating the infection control team-past, present and future. A British perspective, Journal of Hospital Infection 46(2): 96~105, 2000
- 7) Teare EL, Peacock AJ, Dakin H, et al: Build your own infection control link nurse: an innovative study day, Journal of Hospital Infection 48: 312~319, 2001
- 8) Teare EL, Peacock AJ: The development of an infection control link-nurse programme in a district general hospital, Journal of Hospital Infection 34(4): 267~278, 1996
- 9) 西岡みどり: ICN (Infection Control Nurse) とは, INFECTION CONTROL 3(1): 17~21, 1994
- 10) Roberts C, Casey D: An infection control link nurse network in the care home setting, British Journal of Nursing 13(3): 166~170, 2004
- 11) Paula Tinley: The link nurse system in relation to the specialty of tissue viability, British Journal of Nursing 9(19): 59~62, 2000

ABSTRACT

The introduction of working groups changes the motivation of link-nurses

Narumi Oshige

Sasebo Kyosai Hospital Infection control team

The infection control link-nurses act as a link between their own work-place and the infection control team in the hospital. To motivate the infection control link-nurses in our hospital, we had introduced four working groups. After belong to the one of four working groups, the link-nurses worked the part of the infection control work that the infection control team had been done. We have done an awareness survey regarding the role of link-nurse before and one year after the introduction of working group system.

Although only 6 out of 11 link-nurses had the concern for an infection control before becoming the infection control link-nurses, the majority of the link-nurses replied the change of consciousness for the infection control. Regarding the working groups, the link-nurses gave the good evaluation in spite of additional burdens in the work-place. In addition, 10 out of 11 link-nurses replied an additional change of consciousness for infection control after the practical works of infection control by the introduction of working groups. Thus, we confirmed the proof of an insufficient awareness of link-nurses just become a link-nurse in this study.

Keywords: infection control team (ICT), link-nurse, working group